

長崎県作業療法学会を終えて

第 30 回長崎県作業療法学会 学会長
愛野記念病院 作業療法士 山田玄太

2024 年 3 月 9 日（土）・10（日）、愛の夢未来センター（雲仙市愛野町）で開催された長崎県作業療法学会の第 30 回学会長を務めさせていただきました。昨年までは新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりオンラインのみでの開催となっておりましたが、今回は 2019 年の佐世保学会以来となる現地開催となりました。会場には 169 名の方々にお越しいただき、盛会の内に終えることができました。



近年ではリハビリテーションでも専門性が求められ、常に高い知識、技術・技能が必要とされています。そのため今回の学会では、「作業療法について深く考え、そして専門性を究め、長崎の作業療法を一步でも前へ進めたい」という思いで『専門的な作業療法の探究と発展』というテーマといたしました。

特別講演（中部大学 岡野昭夫 作業療法士：以下 OTR）、教育講演 1（長崎北病院 山田麻和 OTR）、



教育講演 2（長崎大学病院 光永済 OTR）では、作業療法の専門性に関わるとご講演をいただきました。テーマシンポジウムでも各分野のスペシャリストの方々にご登壇いただき、作業療法の専門性について討論いたしました。今回のような、著名な作業療法士の方々のご講演・シンポジウムを聴ける機会は長崎県内では滅多にありませんので参加された方々は多くのことが学べる良い機会になったのではないかと感じております。

またもう一つの特別企画として離島シンポジウム『離島作業療法の現状と発展』を行いました。長崎は全国で最も有人離島が多い県ですので、離島の作業療法が発展することが長崎の作業療法の発展に繋がると思います。今回の離島シンポジウムが離島作業療法の発展の一助になれば幸いです。

コロナ禍前までは当たり前のように現地で開催されていた学会ですが、今回の5年ぶりの現地開催で人との交流や学会会場の熱気のある雰囲気など改めて現地に集まって学会を行う意義を知ることができました。今回の学会開催は、コロナ禍の暗い雰囲気を一掃し、長崎県の作業療法を一步ならず二歩・三歩、前へ進めることのできた価値のある学会になったと感じております。



～当院からも6名の作業療法士が運営やシンポジスト、座長などで参加いたしました～

左から

野中（座長）、秋山（事務局長、座長）、山田（学会長）、
中村（シンポジスト）、岩永（座長、抄録委員）、油井（抄録委員）